

# 「産業DXのためのデジタルインフラ整備事業」 成果報告会

／サプライチェーンマネジメント基盤に関する研究開発

／データ連携基盤の構築と業界横断的なデータ流通の実用性検証  
並びに国際連携に関する研究開発

2025年4月23日（開催日）

株式会社NTTデータグループ

# 本テーマの背景・目的

- ✓ 社会や経済の課題が複雑化し、従来の仕組みでは解決が困難になっている。
- ✓ 各国は企業や団体と連携し、データ流通プラットフォームの構築を進めているが、日本企業が活用するには懸念点も存在する。
- ✓ 本事業では、上記の解決に繋がるような企業間のデータ共有・利活用の仕組みを構築する。

## 個社単独では解決が難しい 共通課題

### 厳格化が進む社会的要請や 規制への対応

- ・カーボンニュートラル実現のためのトレーサビリティ
- ・人権デューデリジェンスの証明
- ・資源循環を追跡

### データ起点の 産業DXの実現

- ・地域での需給最適化
- ・ヘルスケア情報活用
- ・高精度な予測技術

企業間データ連携  
による解決

## 各国のプラットフォームを活用する際の 懸念点

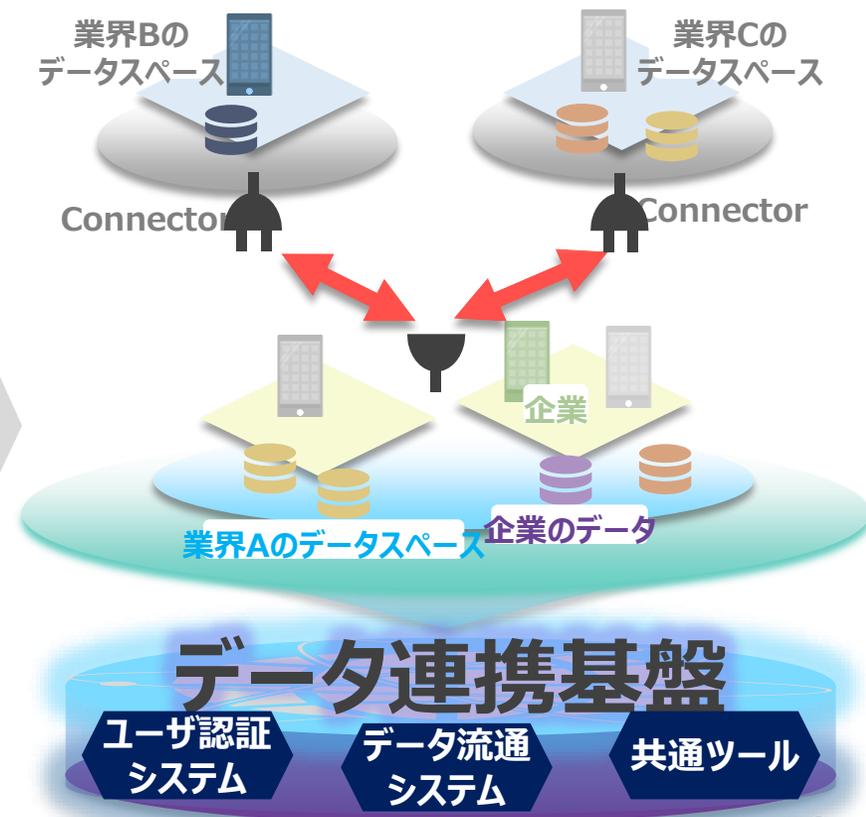
### 長いバリューチェーンで必要な 多対多データ流通

- ・多数の業界サプライチェーン上の企業
- ・法律やルールが異なる国際間取引
- ・同じ情報を異なる手段で何度も提出させられる非効率

### 競争領域における データ主権

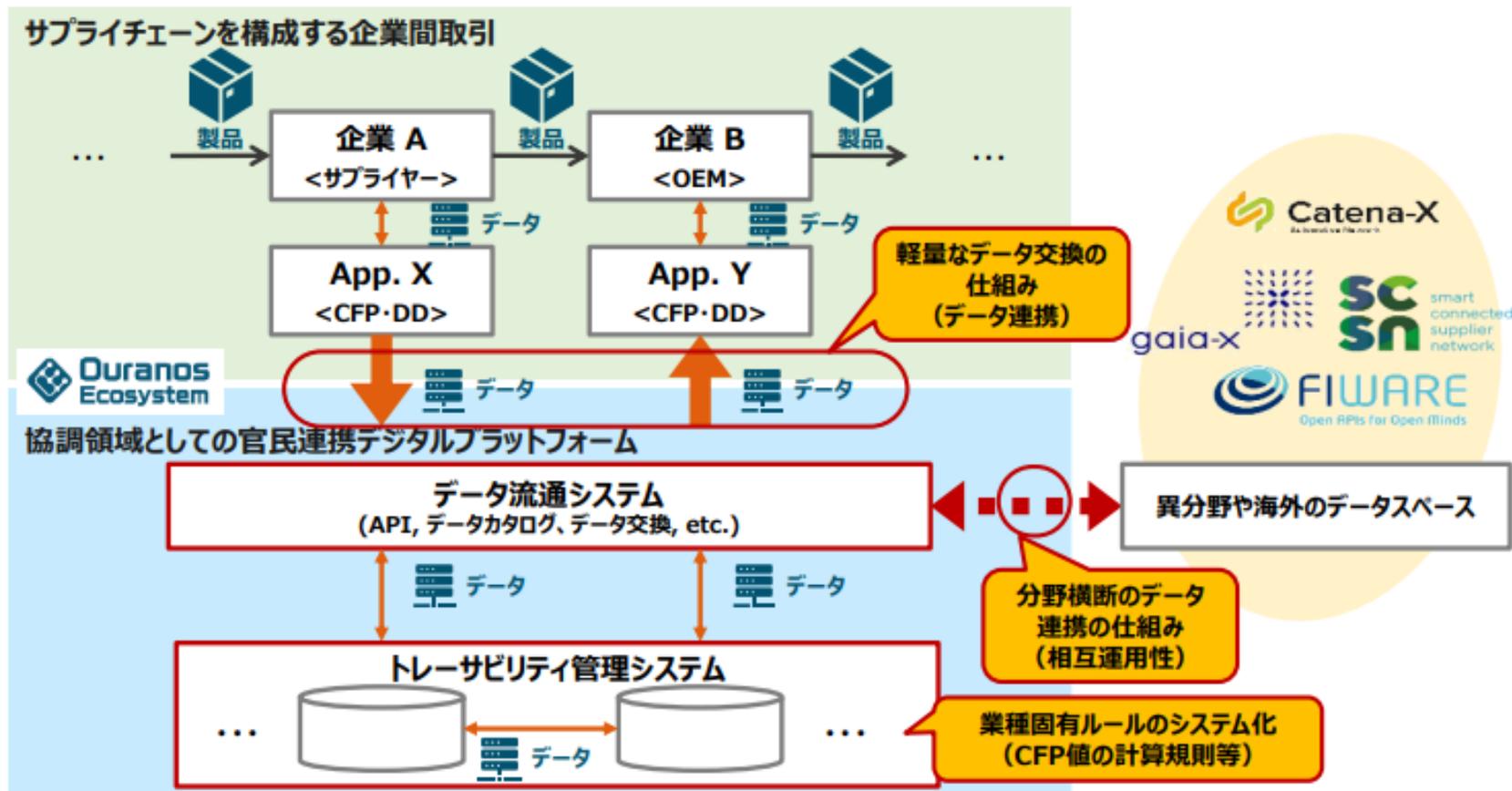
- ・競争力の源泉となる企業秘密の秘匿
- ・取引先情報そのものが企業秘密
- ・個人情報
- ・目的外利用の防止

データ共有・利活用  
仕組み構築



# 本テーマの概要

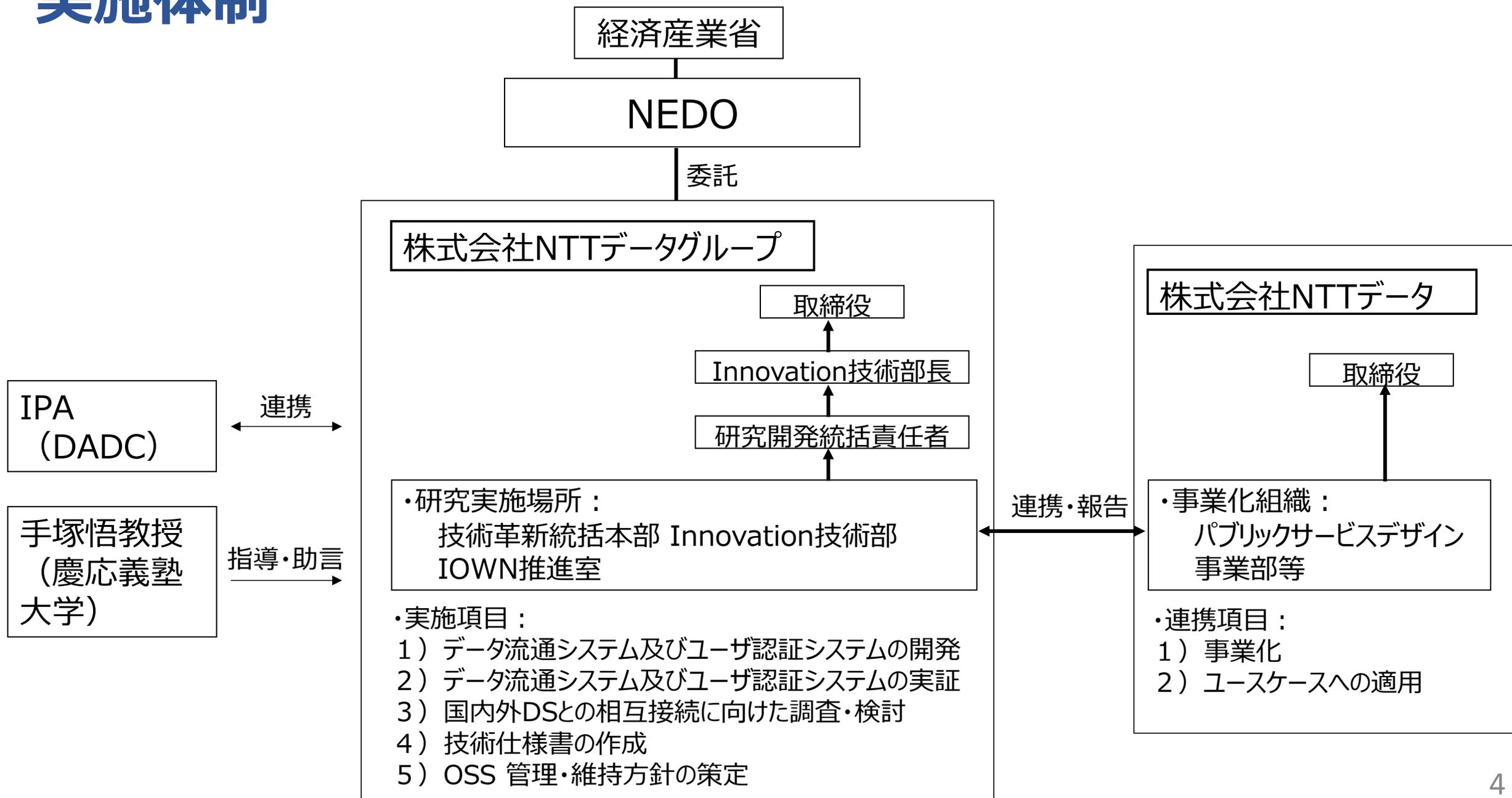
本事業では、DADC が示す「サプライチェーン上のデータ連携の仕組みに関するガイドラインα版」を踏まえて、目的を達成するためのデータ流通システム等を開発し、様々なアプリケーションや連携サービスシステム、他の国内外データスペース等との接続実証を行う。本事業成果を活用したデータ連携基盤の事業イメージを以下に示す。



■IPA：サプライチェーン上のデータ連携の仕組みに関するガイドライン

<https://www.ipa.go.jp/digital/architecture/Individual-link/m42obm000008rd4-att/guideline-for-datacooperation-in-BattCFPDD-beta.pdf>

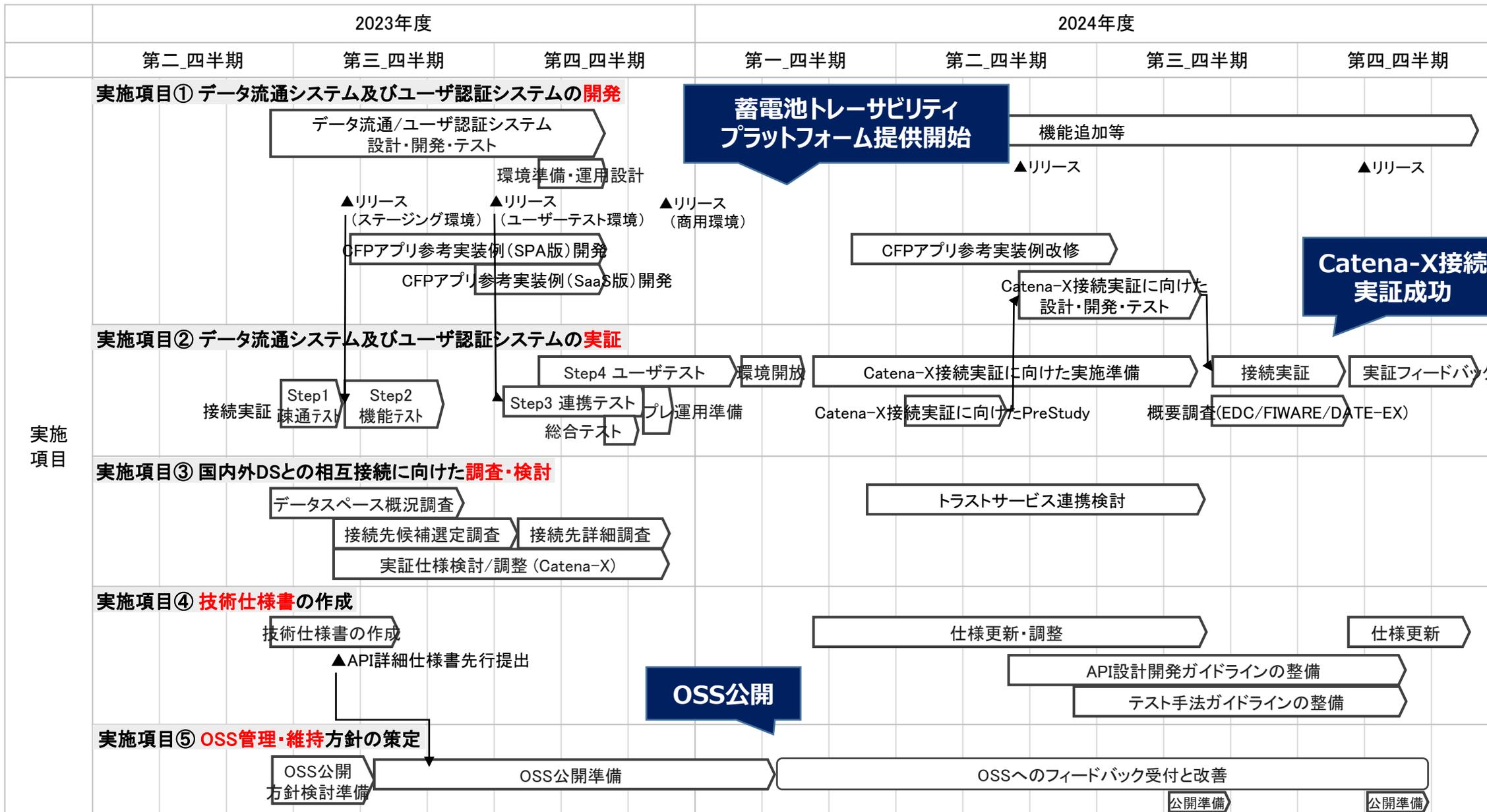
# 実施体制



# 実施項目ごとの目標と根拠

実施項目	概要	目標	根拠
①データ流通システム及びユーザ認証システムの開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ流通/ユーザ認証システムを構築する。</li> <li>データスペース間を接続する機能を開発する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ流通/ユーザ認証システムに関する以下を実施</li> <li>初期開発及び運用設計【加速】</li> <li>APIの提供/カスタマイズ、機能追加</li> <li>サンプルアプリケーション（CFPアプリ参考実装例）開発【加速】</li> <li>Catena-Xとの接続機能開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業際を跨る連携が可能な仕組みを提供し、また実施項目2の実証で利用するための対応</li> </ul>
②データ流通システム及びユーザ認証システムの実証	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施項目1で開発したシステムを用いた各種実証を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ流通/ユーザ認証システムを用いた以下の実機実証を実施</li> <li>蓄電池トレーサビリティシステムにおける運用/非機能観点の実証（受入試験等含む）</li> <li>Catena-Xとの接続実証</li> <li>Catena-X以外のデータスペースに関する概要調査を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>欧州バッテリー規則への対応を見据えた蓄電池のトレーサビリティ管理の実現のための対応</li> </ul>
③国内外データスペースとの相互接続に向けた調査・検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>サプライチェーンデータ連携基盤の接続先候補のデータスペースを選定する。</li> <li>トラストサービスの将来的な連携について検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サプライチェーンデータ連携基盤の接続先候補を選定し、データスペースとの相互接続に必要な要件等を整理</li> <li>将来のトラストサービスとの連携に向けた調査を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サプライチェーンデータ連携基盤と国内外のデータスペースの相互接続に向けた調査対応</li> </ul>
④技術仕様書の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施項目1で開発した成果をAPI仕様書として整理して提供する</li> <li>ウラノス・エコシステムのガイドラインを整理する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ流通/ユーザ認証システムのAPI仕様書の整理、提供</li> <li>設計・開発のガイドラインの整理【加速】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>蓄電池のトレーサビリティ管理実現のための対応</li> <li>ウラノス・エコシステムにおいて統一的なAPIとするための対応</li> </ul>
⑤OSS 管理・維持方針の策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施項目1で開発した成果をOSS公開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施項目1で開発した成果物をOSSとして公開</li> <li>実施項目2の実証完了後、必要に応じて公開済みのOSSを改修し、最終版としてリリース</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々なステークホルダーからのフィードバックを起点にした機能改善サイクル実現のための対応</li> </ul>

# 研究開発スケジュール



# 実施項目ごとの目標達成状況

◎ 大きく上回って達成、○達成、△一部未達、×未達

実施項目	目標 (2023年7月)	成果 (2025年3月)	達成度
①データ流通システム及びユーザ認証システムの開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>●データ流通/ユーザ認証システムに関する以下を実施</li> <li>・初期開発及び運用設計【加速】</li> <li>・APIの提供/カスタマイズ、機能追加</li> <li>・サンプルアプリケーション（CFPアプリ参考実装例）開発【加速】</li> <li>・Catena-Xとの接続機能開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●蓄電池トレーサビリティプラットフォームを構築</li> <li>●以下を実施済み</li> <li>・APIの提供/カスタマイズ、来歴管理機能追加</li> <li>・CFPアプリ参考実装例の開発及び提供</li> <li>・Catena-Xとの接続機能開発</li> </ul>	○
②データ流通システム及びユーザ認証システムの実証	<ul style="list-style-type: none"> <li>●データ流通/ユーザ認証システムを用いた以下の実証を実施</li> <li>・蓄電池トレーサビリティシステムにおける<b>運用/非機能観点の実証（受入試験等含む）</b></li> <li>・Catena-Xとの<b>接続実証</b></li> <li>●Catena-X以外のデータスペースに関する概要調査を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●蓄電池トレーサビリティプラットフォームの提供を開始</li> <li>●Catena-Xとの接続実証を実施済み(2024/12-2025/1)</li> <li>●データスペース（EDC/FIWARE/DATE-EX)に関する概要調査を実施済み</li> </ul>	○
③国内外データスペースとの相互接続に向けた調査・検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>●サプライチェーンデータ連携基盤の<b>接続先候補となるデータスペースを選定</b>し、相互接続に必要な要件等を整理</li> <li>●将来の<b>トラストサービスとの連携</b>に向けた調査を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●データスペースを選定し、相互接続に必要な要件等を報告書に整理済み。</li> <li>●将来のトラストサービスとの連携に向けた調査を実施し、報告書に整理済み。</li> </ul>	○
④技術仕様書の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●データ流通/ユーザ認証システムのAPI仕様書の整理、提供</li> <li>●設計・開発の<b>ガイドラインの整理</b>【加速】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●データ流通/ユーザ認証システムのAPI仕様書の整理、提供を実施済み</li> <li>●ガイドライン文書として整理済み</li> </ul>	○
⑤OSS 管理・維持方針の策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実施項目1で開発した<b>成果物をOSSとして公開</b></li> <li>●実施項目2の実証完了後、必要に応じて公開済みのOSSを改修し、最終版としてリリース</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実施項目1で開発した成果物をOSSとして公開済み</li> <li>●実施項目2の実証完了後、公開済みのOSSを改修し、最終版としてリリース済み</li> </ul>	○

# 実施項目①の成果と意義

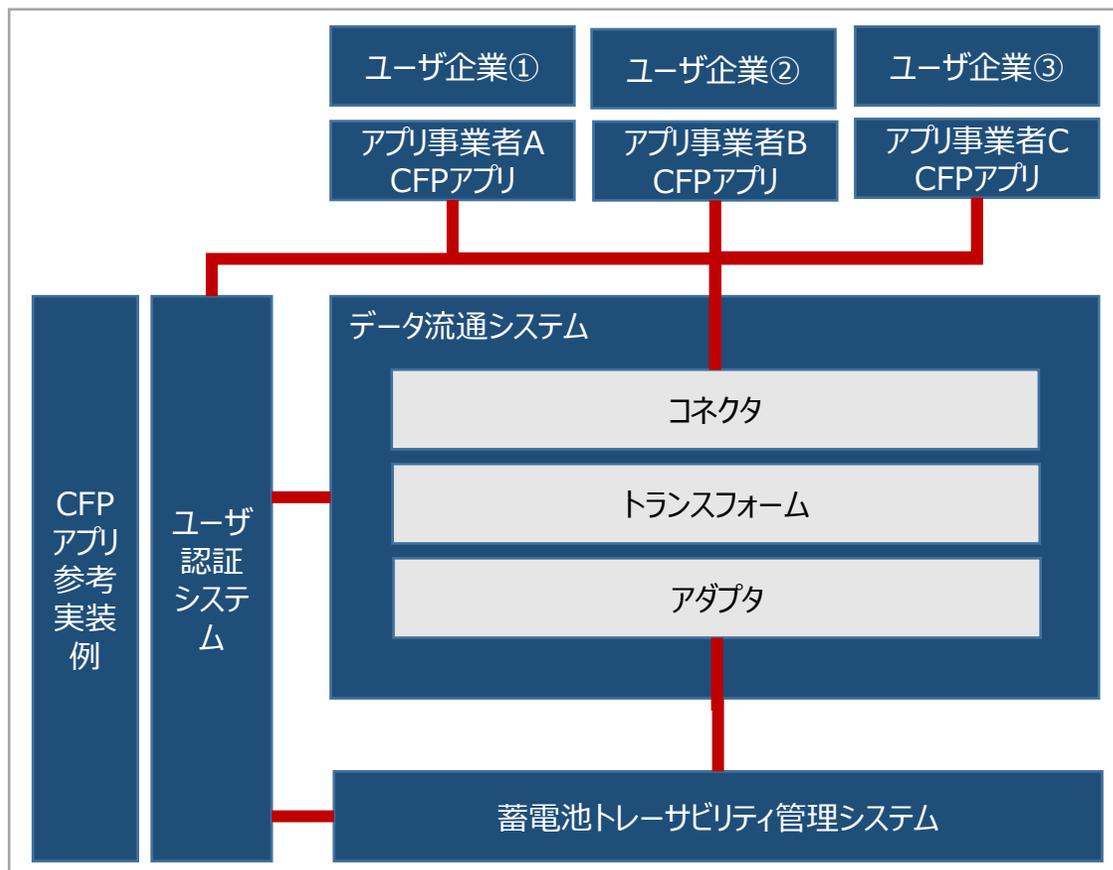
データ流通システム/ユーザ認証システム、サンプルアプリケーション（CFPアプリ参考実装例）を構築し、複数のアプリ事業者のアプリケーションを通じたデータ交換を実現

- 業界横断でのデータ連携を迅速にサービス展開可能とする仕組みとして、また、ウラノス・エコシステムのファーストユースケースである蓄電池のトレーサビリティ管理の実現のため、データ流通システム及びユーザ認証システム、サンプルアプリケーション（CFPアプリ参考実装例）を構築。

## 概要機能一覧

大分類	機能	概要
データ流通システム	コネクタ (データ送受信)	データ流通システムの利用者に対してデータを提供する機能
	トランスフォーム (データ変換)	ユースケース固有システムや他のデータスペースとの接続に必要なデータ変換等を行う機能
	アダプタ (他システムとの接続)	蓄電池トレーサビリティ管理システム等のAPIと、データ流通システムのAPI間を認証した上で接続する機能
ユーザ認証システム	ユーザ認証	あらかじめ登録されているユーザ（事業者）本人であることを確認する機能
	システム認証	あらかじめ登録されているシステムであることを確認する機能
	ユーザ情報管理	ユーザ（事業者）に紐づく事業者・事業所の情報を管理する機能
	識別子変換	アプリケーション、ユーザシステムで扱う事業者識別子・事業所識別子と蓄電池トレーサビリティ管理システムで扱う事業者識別子の変換機能
CFPアプリ参考実装例	部品登録・依頼	構成部品情報の作成や、CFP回答依頼をする機能
	CFP登録・回答	CFPを登録、回答する機能

システムアーキテクチャ（複数のアプリ事業者のアプリケーションを通じたデータ交換）



# 実施項目②の成果と意義

複数のユーザ企業/アプリ事業者とのアプリケーションと連携した実証により企業間でのデータ交換に成功  
欧州バッテリー規則への対応を見据え、2024年5月7日に本番運用開始

- 本事業で開発したデータ流通システム及びユーザ認証システムと、各社CFPアプリケーション、蓄電池トレーサビリティ管理システムで連携した実証を2023年度に実施し、ユーザ企業様64社に御参加いただき企業間でのデータ交換が正しくできることを確認。2024年度も同様に実証を実施。

## 2023年度実証スケジュール



## 2023年度実証内容

テスト	確認観点・成果
Step1 API疎通確認	アプリケーションからデータ連携システムへ接続ができることを確認
Step2 機能テスト	アプリケーションから各APIを利用してデータの登録、参照ができることを確認
Step3 アプリ相互連携	複数アプリケーション間のデータ連携ができることを確認
Step4 ユーザーテスト	サプライチェーン上の各ユーザーが自ら利用し、企業間でのデータ交換が正しくできることを確認

# 実施項目②の成果と意義

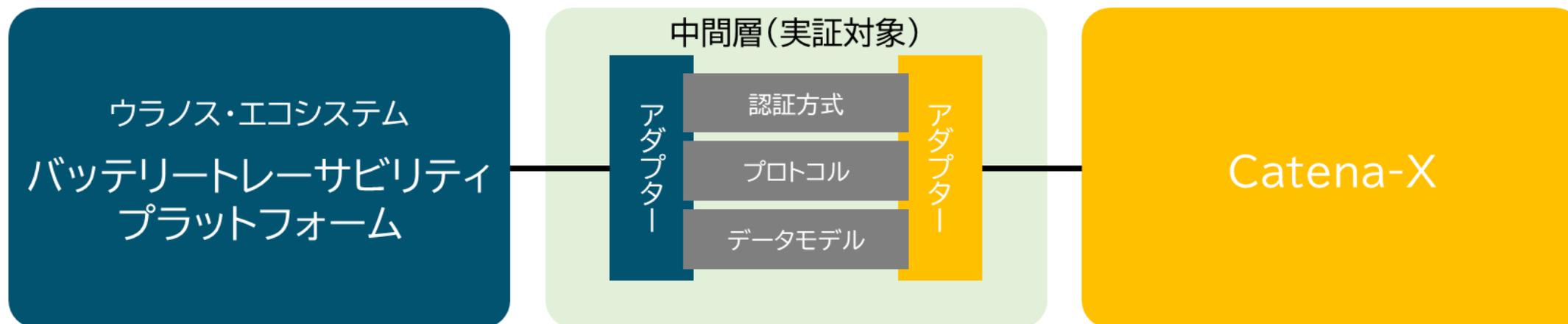
欧州自動車業界データスペースであるCatena-Xとの接続実証を実施

アーキテクチャが異なるデータスペース間での国際データ連携の実現に向け、世界的に先進的な実証を成功

- ウラノス・エコシステムの基に構築されたバッテリーレーサビリティプラットフォームとCatena-Xデータスペースとを接続するための実証用環境を構築し、2つの業務シナリオを想定した双方向（Catena-Xを利用している欧州の完成車メーカーが、バッテリーレーサビリティプラットフォームを利用している日本の部品サプライヤからCFP情報を取得、またその逆方向）のデータ交換を実施。

## 確認内容

- 異なるアーキテクチャのデータスペース間でのデータ連携方式として、相互接続部に、認証方式・プロトコル・データモデルの差分を吸収する中間層を配置するアプローチが有効であることを確認した。
- アーキテクチャ及び運営モデルが互いに異なるデータスペース間での国際データ連携の実現に向け、世界的に先進的な実証を成功させた。
- 技術面での課題とその解決方針を明らかにしたことに加え、制度や運用面等に関して課題として扱うべき複数の事項があることを、ウラノス・エコシステムとCatena-X双方の共通認識とすることができた。



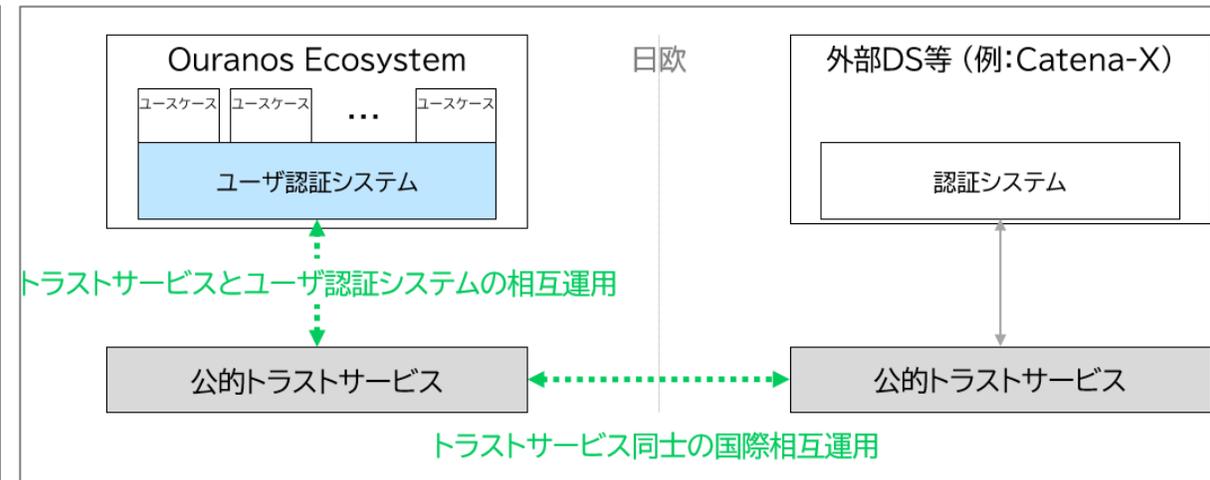
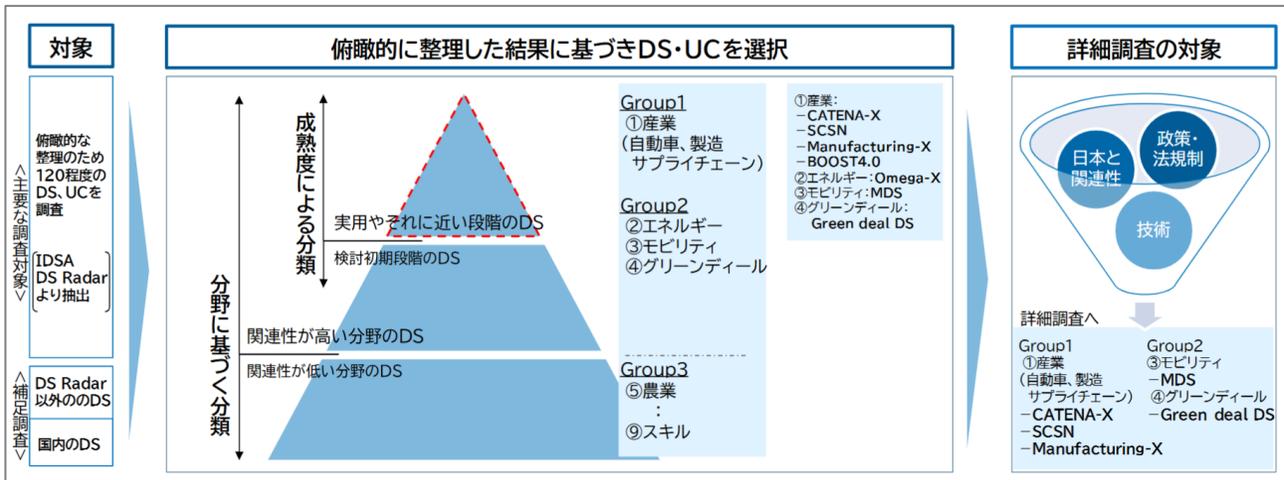
# 実施項目③の成果と意義

- ・海外のデータスペース（120程度）を成熟度や日本の産業との関連性に基づき比較調査
- ・トラストに関する国内外の動向を調査し、将来的なトラストサービス連携を構想

- ・欧州のデータ戦略を考慮の上、分野ごとに優先度が高く国際展開の可能性のあるデータスペースを調査。さらに日本との関連性や政策・法規制等の観点、外部仕様の公開状況などに基づき相互接続候補となりうるデータスペースを抽出。
- ・国内外のトラストに関する動向を調査し、サプライチェーンデータ連携基盤とトラストサービスの将来的な連携案を検討。トラストを確保するために必要な構成要素の洗い出し、日欧の取り組み比較、欧州のトラスト仕組み（Gaia-X Digital Clearing Houseなど）の技術調査を実施。

データスペースの調査および相互接続候補の選定

トラストサービスとの連携



# 実施項目④の成果と意義

## エコシステムとして複数のアプリ事業者が参加する状況で、並行した開発や迅速なデータ交換、API仕様の統一を図るために、仕様書及びガイドラインを策定

- データ流通システム及びユーザ認証システムで開発したAPIについて、以下の内容をAPI仕様書として整理し、各アプリ事業者へ提供。API仕様書をインプットに各アプリ事業者にて並行開発を可能とし、実証の成功に寄与。
  - APIの基本情報（タイトル、バージョン、説明等）
  - APIサーバのURL
  - API定義（エンドポイント、操作（GET、POST等）、リクエストボディ、APIレスポンス、リクエストヘッダ、リクエストパラメータ）
- ウラノス・エコシステムの今後のユースケースで構築する複数のAPIにおいて統一的な設計・開発となるようガイドラインを整理。

### API仕様書

ユーザ認証システム	
GET	/api/v1/authInfo?dataTarget=operator #2事業者情報取得
PUT	/api/v1/authInfo?dataTarget=operator #1事業者情報更新
GET	/api/v1/authInfo?dataTarget=plant #4事業所一覧取得
PUT	/api/v1/authInfo?dataTarget=plant #3事業所情報更新
POST	/auth/change パスワード変更
POST	/auth/login ユーザ本人認証
POST	/auth/refresh アクセストークン情報更新
GET	/api/v1/authInfo?dataTarget=operator&operatorIds={uuid} #17事業者情報一覧取得
データ流通システム	
GET	/api/v1/datatransport?dataTarget=cfp&traceId={uuid} #14CFP情報一覧取得
PUT	/api/v1/datatransport?dataTarget=cfp #15CFP情報更新
GET	/api/v1/datatransport?dataTarget=cfpCertification&traceId={uuid} #18CFP証明書情報取得
GET	/api/v1/datatransport?dataTarget=parts #8事業者部品一覧取得

### ガイドライン

#### API開発設計ガイドライン

- はじめに
  - 1.1.目的
  - 1.2.適用対象・範囲
  - 1.3.位置づけ
- 前提
- 概要と基本情報
  - 3.1.APIの目的と概要
  - 3.2.バージョン管理
  - 3.3.変更履歴
- セキュリティ
  - 4.1.認可と認証
  - 4.2.セキュリティ考慮事項
  - 4.3.CORS
- エンドポイントと操作
  - 5.1.エンドポイントの構成
  - 5.2.エンドポイント構成要素名の統一ルール
  - 5.3.HTTPメソッドと用途
  - 5.4.エンドポイント一覧
- リクエスト
  - 6.1.クエリパラメータ
  - 6.2.リクエストヘッダー
  - 6.3.リクエストボディ
  - 6.4.リクエストボディ項目名の統一ルール
- レスポンス
  - 7.1.ステータスコード
  - 7.2.レスポンスヘッダー
  - 7.3.レスポンスボディ
  - 7.4.レスポンスボディ項目名の統一ルール
- エラーハンドリングとサポート
  - 8.1.ステータスコード
  - 8.2.レスポンスヘッダー
  - 8.3.レスポンスボディ
- 付録
  - 9.1.FAQ
  - 9.2.用語集
  - 9.3.参考文献
  - 9.4.ガイドライン利用者と提供メリット

# 実施項目⑤の成果と意義

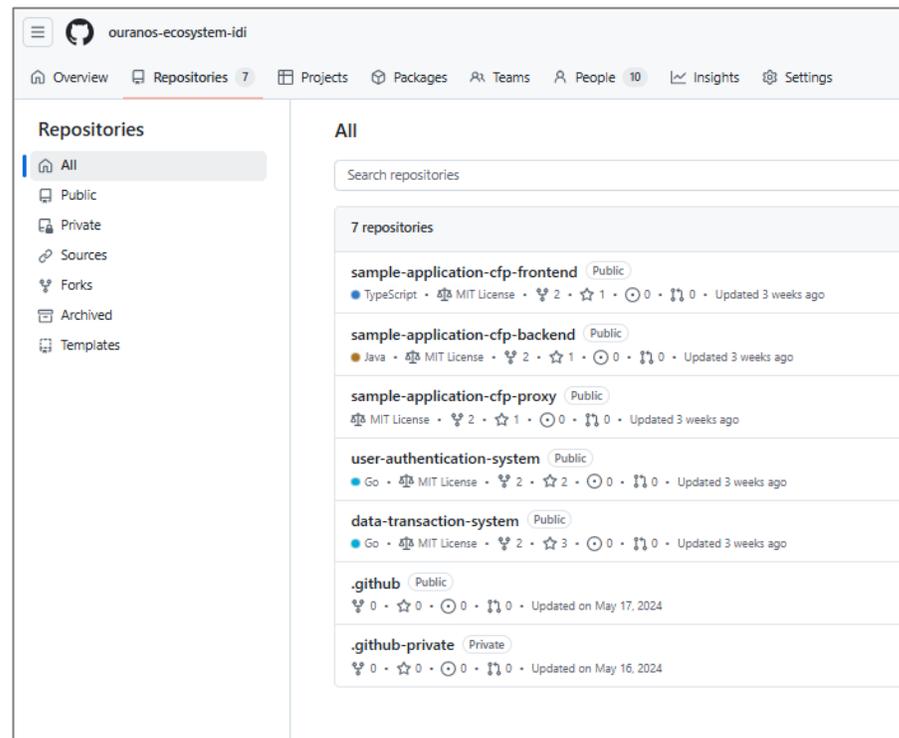
## 本事業の成果をOSS（オープンソースソフトウェア）としてGitHubにて公開 「Ouranos-Ecosystem-IDI」によるウラノスの普及・拡大への貢献

- 経済産業省様が公開し、IPA様の管理されている「Ouranosu-Ecosystem-IDI」の立ち上げに貢献。
- 実施項目①の成果物であるデータ流通システム、ユーザ認証システム、CFPアプリ参考実装例をOSSとして公開。
- 利用手順、サンプルコードなども公開し、誰でもウラノス・エコシステムに参加できる状態を実現。

Ouranos-Ecosystem-IDI  
<https://github.com/ouranos-ecosystem-idi>



The screenshot shows the GitHub profile page for 'Ouranos-Ecosystem-IDI'. The repository name is 'Ouranos-Ecosystem-IDI' with the subtitle 'Ouranos Ecosystem Interoperable Data Infrastructure (IDI)'. It has 10 followers and is located in Japan. Below the profile is a README file with the Ouranos Ecosystem logo and the title 'Ouranos Ecosystem (ウラノス・エコシステム) サプライチェーンデータ連携基盤 関連リポジトリ'. The text in the README describes the project's goals and mentions the Ministry of Economy, Trade and Industry as the power source.



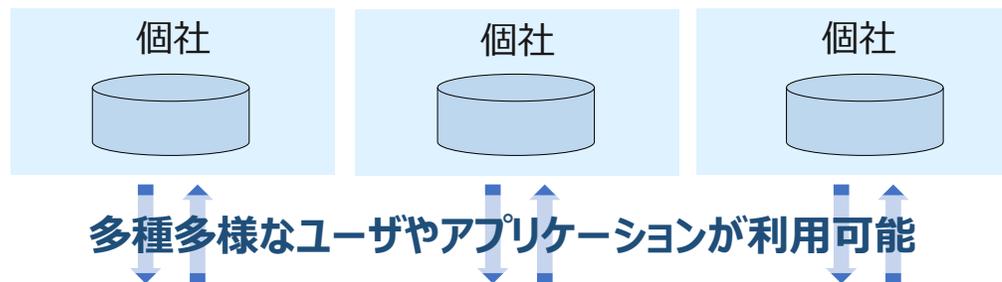
The screenshot shows the 'Repositories' tab of the 'ouranos-ecosystem-idi' GitHub organization. It lists 7 repositories:

- sample-application-cfp-frontend (Public): TypeScript, MIT License, 2 forks, 1 star, 0 issues, 0 pull requests, updated 3 weeks ago.
- sample-application-cfp-backend (Public): Java, MIT License, 2 forks, 1 star, 0 issues, 0 pull requests, updated 3 weeks ago.
- sample-application-cfp-proxy (Public): MIT License, 2 forks, 1 star, 0 issues, 0 pull requests, updated 3 weeks ago.
- user-authentication-system (Public): Go, MIT License, 2 forks, 1 star, 0 issues, 0 pull requests, updated 3 weeks ago.
- data-transaction-system (Public): Go, MIT License, 2 forks, 1 star, 0 issues, 0 pull requests, updated 3 weeks ago.
- .github (Public): 0 forks, 0 stars, 0 issues, 0 pull requests, updated on May 17, 2024.
- .github-private (Private): 0 forks, 0 stars, 0 issues, 0 pull requests, updated on May 16, 2024.

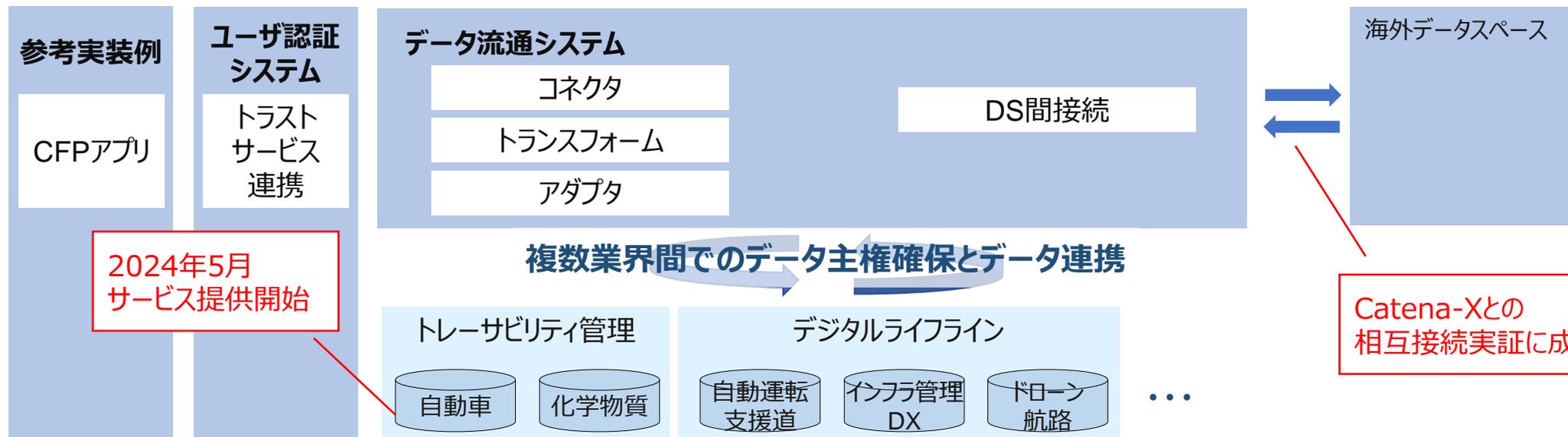
# 事業化の戦略・具体的取組

- 当社は、本事業の研究開発成果を活用して構築したデータ連携基盤サービスを、2024年5月から自動車業界向けに提供開始している。今後、ユーザーのニーズに合わせた最適な機能を迅速に提供することで、複数のユースケースへのサービス提供による事業拡大を狙う。
- 2024年度、本サービスを利用して構築された「バッテリートレーサビリティプラットフォーム」と「Catena-X」の接続実証に成功している。今後、複数のデータスペースを接続し、国際間データ連携をサービス化し、グローバルレベルに事業拡大することを目指す。

ユーザシステム/AP



データ連携基盤サービス



連携サービス

2024年5月  
サービス提供開始

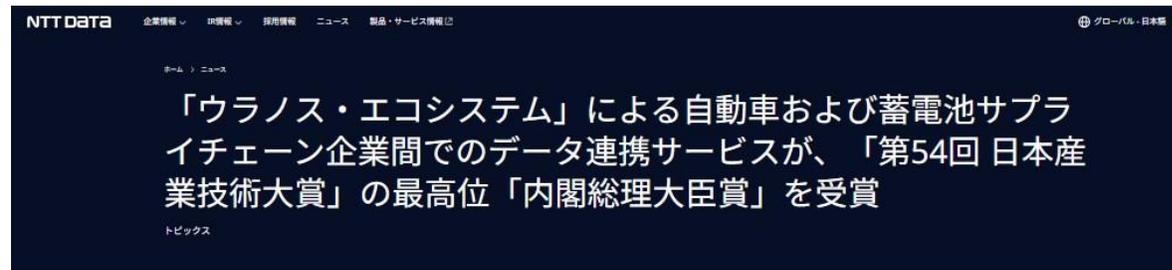
Catena-Xとの  
相互接続実証に成功

適用業界の拡大

グローバル展開

# 事業化の戦略・具体的取組

## バッテリーレサビリティプラットフォームの提供を開始



2024年5月16日  
株式会社NTTデータ

株式会社NTTデータ（以下「NTTデータ」）は、電動車のバッテリーに関する業界最新エコシステム「バッテリーレサビリティプラットフォーム（以下、本プラットフォーム）」を2024年5月16日より提供開始します。本事業は、製造業が持つ豊富な、国産や海外をまたぐ横断的なデータ連携基盤の構築により、社会課題（カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー）や経済課題（パンアソック等によるサプライチェーン断絶、経済安全保障）の解決および企業責任を担う官民連携イニシアティブ「ウラノス・エコシステム」のファーストユースケースであり、将来的にさまざまな産業へ拡張し、国内外でも幅広く利用される次世代の信頼インフラを創出するものです。

本プラットフォームでは、バッテリーのライフサイクルに關する信頼を醸成した企業間でのデータ連携を可能とし、欧州で2023年6月に施行された炭素課税（CBAM）における、バッテリーのライフサイクル全体でのCO<sub>2</sub>排出量や資源リサイクル率の欧州委員会への報告に貢献します。株式会社NTTデータの2024年5月16日より提供開始する「個人自動車等のOASIS対応に向けた実証・支援事業（健全な製品エコシステム構築・ルール形成支援事業）」の1つです。この検証事業は、まずは、バッテリー製造時のカーボンフットプリント報告を企業間で安全に連携可能にする稼働を開始します。

NTTデータは、今後3年間で200社以上の利権投資を計画します。本プラットフォームの提供を通じ業界最先端でのデータの連携を推進することで、サーキュラーエコノミーの実現を推進します。

### 背景

カーボンニュートラルの達成や資源循環型社会、人権・環境デューデリジャンの実現など社会課題の解決策として、サプライチェーンおよびバリューチェーン全体で各組織が保有するデータを安全かつ正確に流通できる仕組みが求められています。特に、欧州において2023年8月に施行された炭素課税では、バッテリーのライフサイクル全体におけるCO<sub>2</sub>排出量や資源リサイクル率を欧州委員会に報告することが求められており、バッテリー市場に先行する弊にカーボンフットプリントの報告が義務化される見込みです。

### ニュースについて

ニュースに掲載されている、リリース内容、リリース、関係の確保、など、お問い合わせ先、その他が掲載されています。お問い合わせ先、その他が掲載されています。お問い合わせ先、その他が掲載されています。お問い合わせ先、その他が掲載されています。

### ニュースメール配信

ニュースの最新情報をいち早くお知らせするために、メール配信を行っております。

[メール配信の申し込みに移る](#)

### イベント・セミナー

NTTデータが主催・共催するイベント・セミナーの最新情報をお知らせいたします。

[イベント・セミナーに移動](#)

2025年4月8日  
株式会社NTTデータグループ  
株式会社NTTデータ

株式会社NTTデータグループ（以下：NTTデータグループ）と株式会社NTTデータ（以下：NTTデータ）は、一般社団法人自動車・蓄電池トレーサビリティ推進センター（以下：自動車・蓄電池トレーサビリティ推進センター）、株式会社ゼロボード（以下：ゼロボード）、株式会社doD（以下：doD）と共同で開催した、「自動車および蓄電池サプライチェーン企業間でのデータ連携サービス」の成果が認められ、日刊工業新聞社が主催する「第54回 日本産業技術大賞」において、最高位となる「内閣総理大臣賞」を受賞しました。



写真：日刊工業新聞社提供

### ニュースについて

ニュースに掲載されている、サービス内容、サービス、製品の価格、仕様、お問い合わせ先、その他の情報は、発表日現在の情報です。その後の変更により変更になる場合があります。また、ニュースにおける計画、目標などは様々なリスクおよび不確実な要素により、実際の結果が予定と異なる場合もあります。あらかじめご了承ください。

### ニュースメール配信

ニュースの最新情報をいち早くお知らせするために、メール配信を行っております。

[メール配信の申し込みに移る](#)

### イベント・セミナー

NTTデータが主催・共催するイベント・セミナーの最新情報をお知らせいたします。

[イベント・セミナーに移動](#)

■NTT DATA：産業データの安全な流通を実現する連携プラットフォームの提供開始  
<https://www.nttdata.com/global/ja/news/release/2024/051600/>

■NTT DATA：「ウラノス・エコシステム」による自動車および蓄電池サプライチェーン企業間でのデータ連携サービスが、「第54回 日本産業技術大賞」の最高位「内閣総理大臣賞」を受賞

<https://www.nttdata.com/global/ja/news/topics/2025/040801/>

# 事業化の戦略・具体的取組

## Catena-Xとの相互接続実証に成功



2025年3月31日

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構  
株式会社NTTデータグループ

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下、NEDO）の「産業DXのためのデジタルインフラ整備事業」にて、株式会社NTTデータグループ（以下、NTTデータグループ）は、独立行政法人情報処理推進機構（以下、IPA）とCatena-X Automotive Network e.V.<sup>[1]</sup>の間で締結された「自動車業界向けデータ共有における相互運用性の検証（PoC）に関する覚書<sup>[2]</sup>」に基づき、「ウラノス・エコシステム<sup>[3]</sup>」のもと構築された「バッテリートレーサビリティプラットフォーム」と「Catena-X」との技術的な相互接続実証に成功しました。本実証では、異なるアーキテクチャのデータスペース<sup>[2]</sup>間の接続における、認証方式・プロトコル・データモデル等に関する技術課題を明らかにしたほか、中間層を設けることで、双方のアーキテクチャに影響を与えずデータを相互に交換できる仕組みの実現性を確認しました。

NTTデータグループは、データスペース間の相互接続の確立に向けて継続的に取り組み、企業や業界、国境を跨いだ円滑・安全なデータ流通の実現による豊かな社会を目指します。

（参考）本実証に関するIPAとCatena-X Automotive Network e.V.のプレスリリース：「[ウラノス・エコシステムとCatena-X、データスペースの相互運用性を実証](#)」～グローバルなデータ課題に挑んだ第一歩～

### ニュースについて

ニュースに掲載されている、サービス内容、サービス・製品の価格、仕様、お問い合わせ先、その他の情報は、発表日現在の情報です。その後予告なしに変更となる場合があります。また、ニュースにおける計画、目標などは様々なリスクおよび不確実な事項により、実際の結果が予定と異なる場合もあります。あらかじめご了承ください。

### ニュースメール配信

ニュースの更新状況をいち早くお知らせするために、メール配信を行っております。

[メール配信のお申し込み](#) →

### イベント・セミナー

NTTデータが主催・講演するイベント・セミナー

■NTT DATA：バッテリートレーサビリティプラットフォームとCatena-Xとの接続実証に成功

<https://www.nttdata.com/global/ja/news/topics/2025/033100/>

# アウトカム達成に向けた具体的取組

- 本事業のアウトプット目標である研究項目ごとのデジタルインフラ整備については、前項の自動車業界向けバッテリートレーサビリティプラットフォームの構築、サービス開始により達成した。
- アウトカム目標への貢献に向けて、自動車業界に続くサービス提供先として化学業界等の製造業界など、サプライチェーン上の多数の企業間でデータ連携を行う業界で、本事業の成果が展開されることにより、2029年度までにデータ連携サービスとして数百億円規模の市場が創出されると見込んでいる。

アウトカム目標	KGI	KPI	達成状況
サプライチェーンの可視化による在庫や機会ロス改善に伴うサプライチェーンコスト改善（7～20%の改善）、サプライチェーン分析の市場創出	複数企業間のデータ流通に関連する新規ビジネスを創出し、2025年3月31日までに事業化（サービス提供開始や受注契約等）を獲得する（1件以上）	2023年度 データ流通/ユーザ認証システム開発 2024年度 データ流通/ユーザ認証システム機能改善 国内外データスペースとの接続実証	2023年度 データ流通/ユーザ認証システム開発、運用・非機能試験を完了 2024年 データ流通/ユーザ認証システム機能改善(ユースケース要件取込)を完了 Catena-Xとの接続実証に成功

考え方	2027年度	2028年度	2029年度
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自動車、化学、機械、電気等の製造業を対象とし、最大1,000社の大企業、5,000社の中小企業の参加を想定</li> <li>• 事業規模や提供機能に応じ、段階的なサービスメニューに応じた利用料を想定</li> <li>• 日本、及び諸外国のデータ連携市場の状況から、26年度までは各業界向け実証、27年度以降に本格的な市場の立ち上がりを想定</li> </ul>	148億円	222億円	274億円

本資料に掲載されている製品名、会社名、サービス名は、各社の商標または登録商標です。